2. 食用作物の生産概況

第15表　ランポン州の食用作物の生産の推移（野田）

作物名 ＼ 項目 ＼ 年次		収穫面積 (ha)				生産量 (ton)				ha当収量 (ton)			
		1970	1975	1977	1980	1970	1975	1977	1978	1970	1975	1977	1978
稲	水稲	75,890	130,187	123,820	135,704	187,242	384,809	399,072	429,910	2.467	2.956	3.223	3.168
	陸稲	139,768	103,740	118,377	119,012	138,208	148,838	175,671	180,541	0.989	1.435	1.484	1.517
	計	215,658	233,927	242,197	254,716	325,450	533,647	574,743	610,451	1.509	2.281	2.373	2.397
トウモロコシ		63,839	28,552	35,768	45,854	56,681	31,978	39,631	55,529	0.888	1.120	1.108	1.211
キャッサバ		34,347	60,623	69,478	78,433	311,266	654,728	764,258	854,920	9.100	10.800	11.000	10.900
甘藷		4,189	2,531	3,022	2,444	21,650	23,791	25,385	18,954	5.200	9.400	8.400	7.600
ラッカセイ		2,930	6,942	5,272	8,283	1,741	4,852	3,385	6,345	0.594	0.699	0.642	0.766
大豆		11,845	36,573	34,476	36,730	6,867	35,110	30,442	33,094	0.580	0.960	0.883	0.901
緑豆		801	952	1,588	1,293	478	592	1,009	724	0.597	0.622	0.635	0.560
ソルガム		—	1,348	360	384	—	2,585	407	672	—	1.918	1.131	1.751

（注）(1) 1970年，1975年，1977年の統計は，STATISTICAL YEAR BOOK OF INDONESIA 1975, 1977 より，ただし緑豆，ソルガムは，LAPORAN TAHUNAN DINAS PERTANIAN LAMPUNG より。

(2) 1978年は，Statistical Pocket Book of Indonesia 1978／1979より。

(3) 稲の生産量は，乾燥籾重。1970年，1975年の生産量の原数値は，乾燥穂つき籾重であったので，修正率76.6％（DINAS PERTANIAN 1977年度より引用）を乗じて乾燥籾重とした。

3. 優良種子の増産と配布（写真７）

(1) 稲

ランポン州では水稲2,400 ton，陸稲７５０ ton の種子が毎年必要であり，その３分の１を更新するとすれば水稲８００ ton，陸稲２５０ ton を毎年新らたに供給しなければならない。これに対して必要な水田面積は４００ha（ha当り２ ton の種子生産），畑面積１７０ha（ha当り約1.5 ton）である。これらの種子は中央農研（CRIA, Bogor）で Foundation seed（原々種），テギネネンセンターで Stock seed（原種），採種農家で Extention seed（採種）の順序で生産される。

写真７　Tegineneng Centreでの種子増殖，乾燥調整作業

以上にもとづき1978／1979～1980／1981の３ケ年の優良種子の生産を計画し実施中であり，１９７８／１９７９年度は水稲１８０ ton，陸稲 67.5 ton の生産目標をほぼ達成した。なお，１９７９／１９８０年の目標は水稲２７０ ton，陸稲８５ ton となっている。生産の対象としている品種は，水稲ではＩＲ３６，ＩＲ３８，Asahan，Serayu，Citarum，陸稲では Sirendah，Semeriti，Bicol，Cartuna である（第１６表）。

テギネネンセンターにおける原種の生産計画は第１７表のとおりで，１９７８／１９７９，

第１６表　Extention seed の生産目標

作物＼年度	1978／1979 (ton)	1979／1980 (ton)	1980／1981 (ton)	計 (ton)
水　稲	１８０	２７０	５４０	９９０
陸　稲	６７.５	８５	８５	２３７.５

第17表　テギネネンセンターにおける稲種子の生産計画

年度 / 項目 / 作目	1978／1979		1979／1980		1980／1981		計	
	面積 (ha)	生産量 (ton)	面積 (ha)	生産量 (ton)	面積 (ha)	生産量 (ton)	面積 (ha)	生産量 (ton)
水稲	10	5	10	10	10	15	30	30
陸稲	20	20	15	20	15	20	50	60

1970／1980年度は十分に目標を達成した。

なお，テギネネンセンターでの採種栽培は，植付から収穫まで機械化作業を行うことを計画し，水田では1区1 ha の大型圃場とし，1品種1 ha（1区画）栽培を原則とした。そして，従来の湿田を乾田化するため水路の保修を行い，水管理に十分な注意をし，機械化作業のための施肥基準を設定した。すなわち，水稲では従来の施肥基準 Urea 200 Kg／ha，TSP 100 Kg／ha を Urea 150 Kg／ha，TSP 150 Kg／ha とし，陸稲では従来の Urea 100 Kg／ha，TSP 100 Kg／ha を Urea 70～80 Kg／ha，TSP 100 Kg／ha としたため，1979／1980年度は倒伏や病害の発生も少なくコンバインによる収穫が可能となった。

また，デモファーム内での年次，場所，品種別の種子生産状況は，「Report of Japanese Experts for the second Phase of Lampung Tani Makmur Project（1977～1980）（昭55. 11）」の176頁（陸稲），177頁（水稲）に記載した。

(2)　トウモロコシ，豆類

テギネネンセンターでは第18表のとおり生産目標を計画し，1978／1979，1979／1980年度ではそれぞれ目標を達成した。なお，トウモロコシの主な品種は Harapan Bare（H6）であり，病虫害防除に記した種子消毒剤 Ridomil によるベト病の防除を全圃場で実施した。また豆類では，大豆は品種№29，1343／1161 3－2，ORBA 1343，ORBA／Taining 3－3－2，DAVROS，B／1667，ラッカセイは Gajah，Kidang，Banteny，緑豆は№129の採種を行った。

第18表　テギネネンセンターにおけるトウモロコシ，豆類の種子生産計画

年度 / 項目 / 作目	1978／1979		1979／1980		1980／1981		計	
	面積 (ha)	生産量 (ton)	面積 (ha)	生産量 (ton)	面積 (ha)	生産量 (ton)	面積 (ha)	生産量 (ton)
トウモロコシ	15	10	15	15	15	20	45	45
豆類	0.3	0.15	1	0.5	5	2.5	6.3	3.15

なお，トウモロコシ品種 Harapan Baru の採種農家での生産計画は第１９表のとおりである。

第１９表　採種農家におけるトウモロコシの生産計画

年　　度	面　積（ha）	生産量(ton)	生産量にみあう栽培可能面積（ha 当り４０Kg播種）
１９７８／１９７９	１０	２０	５００ ha
１９７９／１９８０	２０	４０	１,０００ ha
１９８０／１９８１	４０	８０	２,０００ ha
計	７０	１４０	３,５００ ha

(3)　優良種子の生産を阻害する要因と対策

優良品種の生産を阻害する要因としては，イネでは「ネズミ」「鳥の害」，害虫は「イネクキハナバエ」，「メイチュー」，「カメムシ類」，またダイズでは「マメモグリバエ」があるが，病害では，イネは「首いもち病」や「すじ葉枯病」，「褐色葉枯病」，「ごま葉枯病」による穂枯れ症が激甚な発達をしている所が多く，大豆，ラッカセイでは「ウイルス病」，緑豆では「そう痂病の発生が問題である。そこで，これらの病害による被害調査を行った結果，品種によっては予想以上に被害が大きいことが判明した。すなわち，１９７９年乾期作，１９７９／１９８０年雨期作で「苗いもち」，「首いもち病」を主体として品種の抵抗性検定試験を実施した結果，イネ穂枯症の発生は陸稲品種 Sirendah が比較的少なく，また多収なので実用品種として奨励できることが明らかとなった。

なお，イネ，大豆，緑豆で種子伝染性病害が多く発見されチウラム・ベノミル水和剤による種子消毒試験を実施した結果，イネ，緑豆では発芽障害はみられず，土壌が乾燥しているときに播種した大豆では，消毒区は無消毒区にくらべ発芽が非常に良好であった。

すなわち，今後イネおよびマメ科作物の優良種子を増殖，配布するにあたり，種子消毒の励行，抵抗性品種の導入，普及になお一層の努力を行う必要がある。

(4)　食用作物の栽培体系について

タニマムールプロジェクトにおける食用作物の栽培体系を検討した結果，品種の変せん，新技術の開発などにより旧指導事項の一部について改善することが妥当と考えられたので，水稲，陸稲，トウモロコシ，大豆，ラッカセイ，緑豆，キャッサバについて栽培体系を作成した。

(5)　栽培関係トライアル（写真８，９）

栽培関係トライアルは１９７８／１９７９年では６ユニット，１９７９／１９８０年度では６

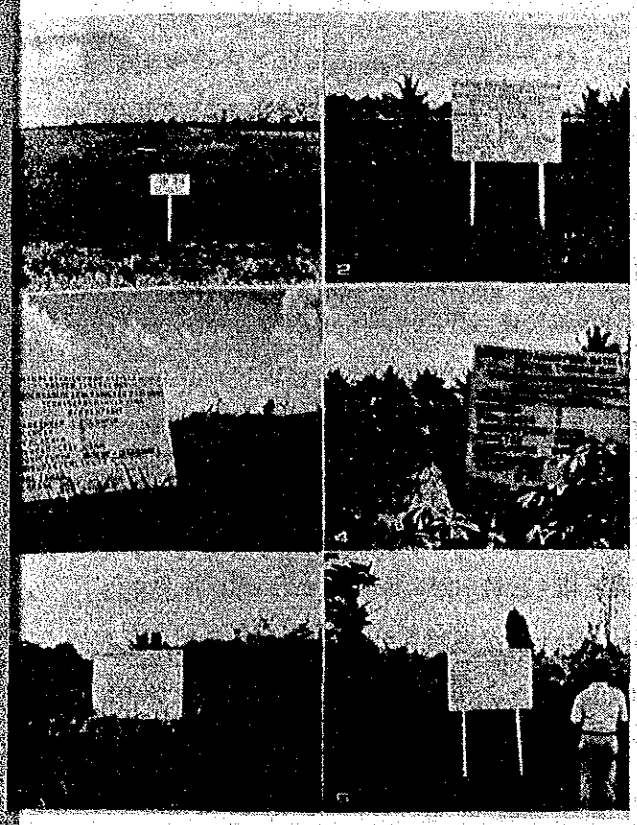


写真8　栽培関係トライアル
①は　IR38の種子増殖(Tegineneng Centre)

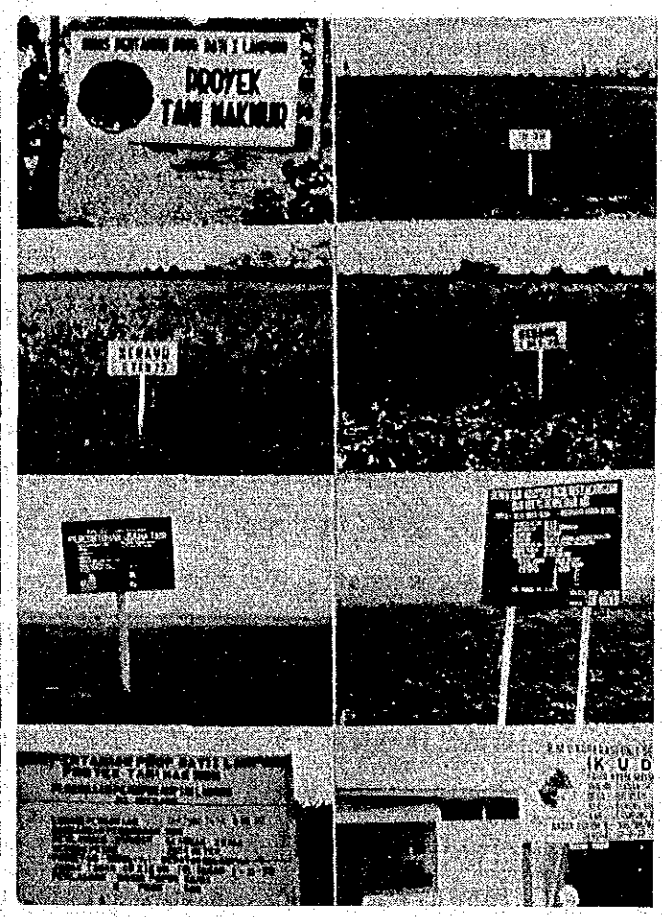


写真 9　トライアル（栽培，土壌肥料）　右下，ライスミル

ユニットが実施され，その結果について解析した。

作付体系のトライアルは1978／1979年度では3ユニット，1979／1980年度では3ユニット実施された。輪作体系のトライアルは1979／1980年度に13ユニット実施した。品種比較試験は1978／1979年度に15ユニット，1979／1980年度に3ユニット実施され，その結果について解析した。1980／1981年度は，品種比較試験5ユニット，輪作試験17ユニット，種子増産（種子増殖，種子の検査指導）61ユニットである。

4. 病虫害防除

(1) 病害虫発生状況等

1) 水稲　1976年問題となった「トビイロウンカ」による被害は，1977～1980年は発生が局部的で，ジャワ島で認められたBiotype Ⅱはランポン州では確認されていない。「メイチュウ類」，「シントメタマバエ」等の主要害虫は発生が少なく経過した。主要病害では，「すじ葉枯病」は全域に発生し，多肥の水田では「紋枯病」による被害がみられた。「ネズミ」の被害は全般的に多いが，特に1978年は多発した。

2) 陸稲　雨期に入りおそく播種した場合，「イネクキハナバエ」により全滅した所が多かった。陸稲品種Bicol，Seratus Malam等は，「いもち病」に対して抵抗性が弱く，被害を生ずることが多かった。その他「白葉枯病」「褐色葉枯病」も多肥条件の栽培で多発した。

3) トウモロコシ　1973年，ランポン州で「べと病」が品種Metro等に大発生し，問題となった。その後抵抗性品種Harapan Baruが栽培されたが，この品種は比較的抵抗性はみられるが，発病し，また収量も低かった。1977～1978年の試験で，Ridomil（2％粒剤）の土壌施薬で卓効が認められたが，経済的に実用化はできなかった。1977～1980年に種子粉衣剤〔Ridomil SD35（DL－N－(2,6－dimethylphenyl)－N－(2－methoxyacethyl) alanine methylester 35％〕が開発され，種子1Kgに対しRidomil 5g（0.5％）の湿粉衣で有効なことが確認され，経済的にも使用可能となったので1979／1980年雨期作で，州内100ha（当プロジェクトのデモファームで50ha）の展示試験が行われ，良好な成績をおさめた。さらに，Ridomilによる種子粉衣量は，種子1Kgに対し有効成分で0.5g（Ridomil SD35の1.4g，すなわち0.14％）でも有効なことが判明したので，経済的にも十分使用可能となった。商品の研究が潤沢になれば，「べと病」防除の問題は，一応の解決をみると考えられる。

「イネクキハナバエ」は，トウモロコシにも陸稲と同時期に加害するが，被害形態が異なるので，注意を要する問題である。

4) 豆類　大豆，緑豆等の幼苗を加害枯死させる「マメモグリバエ」の被害は甚大である。これも季節的に被害の消長がある。また「シロイチモジマダラメイガ」「カメムシ類」の多被害も報告されているが，種類の確認はできなかった。大豆，ラッカセイの「ウイルス病」の発生も多く，緑豆の新病害「そう痂病」による被害で，収穫皆無の圃場もみられた。

(2) 病害虫関係トライアル

1978／1979年度は，6ユニット行われたが，4ユニットについて解析した。1979

／1980年度は43ユニットに増加した。実施した内容は次のとおりである。

1) 病虫害に対する品種間差異の観察。水稲10ユニット，陸稲5ユニット。

2) 播種時期と病害虫発生との関係，水稲5ユニット，陸稲5ユニット，大豆3ユニット，トウモロコシ2ユニット。

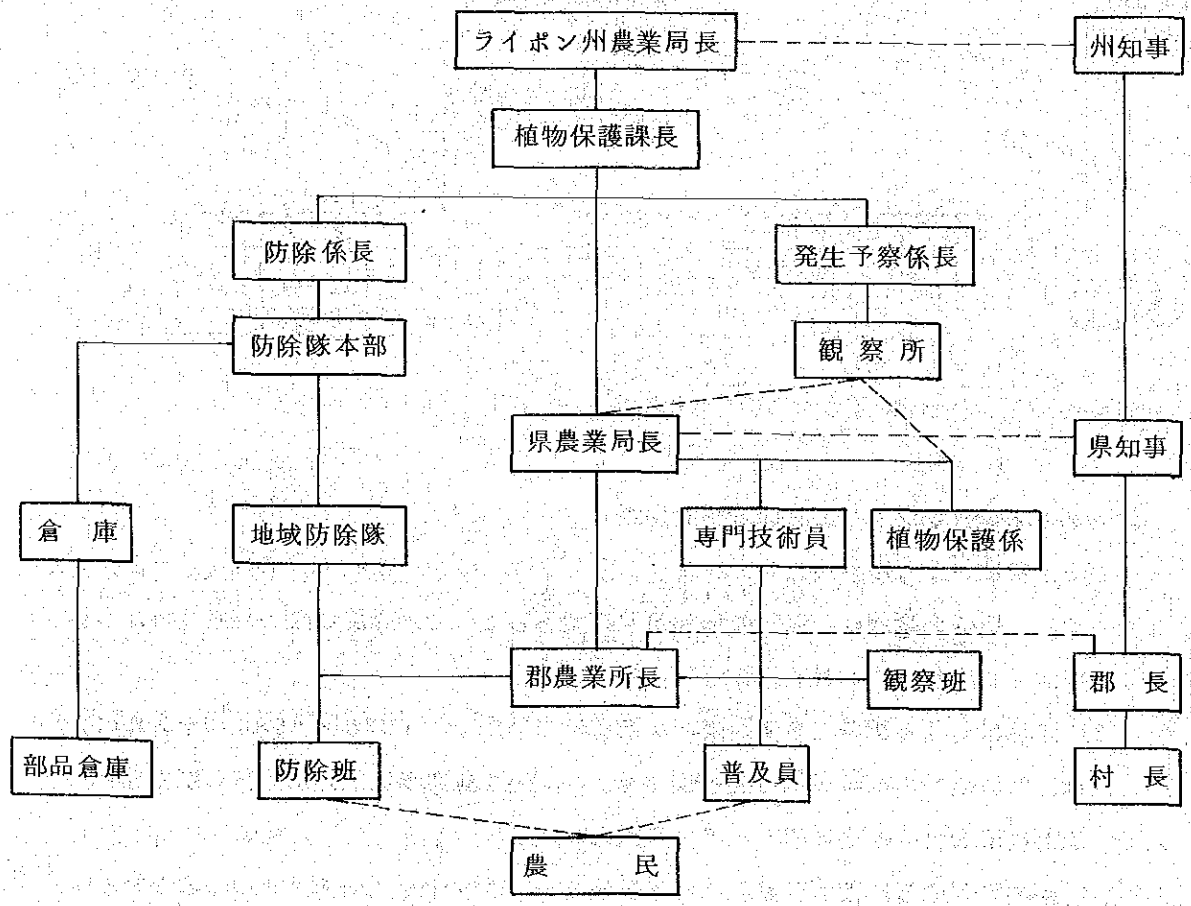
3) 病害虫防除の時期と回数の試験。水稲主要害虫6ユニット，水稲紋枯病2ユニット，陸稲いもち病3ユニット，大豆害虫2ユニット。

27ユニットの報告が提出され，一応の解析を終了した。1980／1981年度は41ユニットである。

(3) ランポン州の植物防波体制

第6図のように極めて整然とした組織図があるが，その活動は低調である。地域防除隊は1973年南ランポン県 Tanjung Karang に始めて設置されたが，1975年には，中ランポン県 Metro に，1976年には北ランポン県，Kotabumi に設置された。

第6図 ランポン州の植物保護組織（上田）

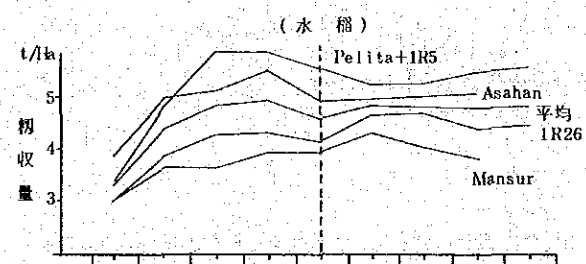


5. 土壌肥料

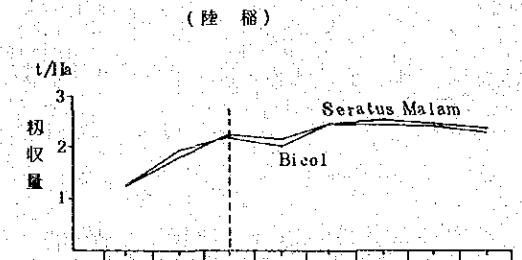
(1) 土壌肥料関係トライアル（写真９）

1978／1979年度は２０ユニット，1979／1980年度は２２ユニットの施肥試験を水稲，陸稲に対して実施した。1978／1979年度は，水稲では5品種を用い，尿素200 Kg／ha，TSP 100Kg／ha の基準量に対して，その増減を８区で比較し，陸稲では２品種を用い，尿素100Kg／ha，TSP 100Kg／ha の基準量に対して，その増減を７区で比較した。その結果，第７図に示すとおり，各試験とも，無肥料の収量は低く，水稲で，尿素150Kg／ha，TSP 150Kg／haまで増収傾向がみられた。陸稲では，一般に収量は低かったが，基準量より若干増施した方が増収した。

第７図　1978／1979年度施肥トライアル結果の概要



		A	B	C	D	E	F	G	H	I
施肥量 kg/ha	尿　素	0	150	150	150	200	200	250	250	200
	TSP	0	75	100	150	100	150	100	150	100
	硫酸加里	0	0	0	0	0	0	0	0	100



		A	B	C	D	E	F	G	H
施肥量 kg/ha	尿　素	0	50	100	150	150	200	200	100
	TSP	0	50	100	100	150	100	150	100
	硫酸加里	0	0	0	0	0	0	0	100

(2) テキネネンセンターにおける施肥試験

1) 水稲に対する燐酸増施およびよう燐との肥効比較　　1979／1980年雨期作の結果では，燐酸の増施は，穂数の増加が顕著であったので，今後燐酸の施肥基準について再検討を要すると思われる。

2) 陸稲に対する肥料三要素および炭酸石灰の効果，　1979／1980年雨期作の結果では，無燐酸区の減収がもっとも大きく，つづいて無窒素区，無加里区の順となった。また炭酸石灰の効果は明らかでなかった。

3) 陸稲に対する三要素試験（ポット試験）　　ランポン州内７地点の土壌を採取し，網室内でのポット試験の結果では，無燐酸区の収量が各土壌とも低く，つづいて無窒素区

で，無加里による減収は比較的少なかった。

(3) 実験室

1) 土壌分析の指導　1978年8月までに実験室内の配電，配水が整備され，総ての分析機器が使用できるようになったので，供与分析機器の点検，整備および分析用薬品，ガラス器具等の整理を行った。なお，ランポン州の開発の対象地は，ほとんどポドソール土壌であり，砂含量が多く，酸性が強く，置換容量が小さく，置換性塩基や可給態燐含量が少ない等の特性を有していることより，分析項目の採択，供与，分析機器を利用した分析方法の選定，分析，計算法の具体化等を検討し，インドネシア語のハンドブック（Penuntun Analisa Tanah di Tegineneng）を作成し，実験室用とした。

2) 土壌分析　1979年2月にランポン州各地（1978／1979年度トライアル地点を含む）から約100点の土壌を採取し，分析を行った結果，ラトゾール土壌とポドソール土壌とのちがいは明らかであったが，土壌診断すなわち生産力との関係を考察するには関連データーが不足であった。今後，地力維持管理，施肥基準について検討するうえで，作物による養分の収奪と残渣物による耕地還元量を測定する必要があり，土壌分析と併せて作物体分析を行う必要性を指摘した。

6. デモファーム，ライスミル，農業経済調査

(1) デモファーム

1979年11月，1980年5月31日のデモファームの現状は第20表のとおりである。

第20表　デモファームの現状

項目	箇所数	1979年11月		1980年5月31日		
		面積（ha）	所属農家数（戸）	所属農家数（戸）	所属農家数（戸）	生産資金(貸与)（RP）
水田	41（南ランポン0，中41，北0）	957	1,527	944.06	1,814	25,032,576
畑	56（南ランポン12，中44，北0）	4,555	8,010	4,483.25	8,340	79,293,750
合計	97ケ所	5,512	9,537	5,427.31	10,154	104,326,326

なお，1979年デモファーム参加農家に対する講習会を開催し，専門家，カウンターパートが，種子生産と普及，病害虫防除，土壌肥料，農業経営，農業機械の5部門に分れて，畑作デモファーム関係は，9月20日～10月11日，水田デモファーム関係は，10月27日～11月1日，11月20日～27日に実施された。

1978／1979年度の水，陸稲別のデモファームの収量調査結果は第21表のとおりで，BIMAS参加農家，一般農家より高い収量がえられた。

第21表　デモファーム，BIMAS，一般農家の稲収量

項　目	水稲				陸稲	
	1978年乾期作		1978／1979年雨期作		1978／1979年雨期作	
	調査箇所数	ha当収量(ton)	調査箇所数	ha当収量(ton)	調査箇所数	ha当収量(ton)
デモファーム	14	4.701(100)	17	5.576(100)	24	1.538(100)
BIMAS	11	3.391(72)	13	4.762(85)	15	1.272(83)
一般農家	16	2.800(60)	7	3.543(64)	7	0.663(43)

（注）　収量は乾燥籾重

畑作デモファーム56ケ所の資金回収は，プロジェクトの援助総額に対して，1979年3月，84％で，1978年の94％にくらべ下降している。その原因は，指導者の回収資金の流用によることが，主なものであり，また水田デモファームは，土地の分割（遺産相続等）で耕作者の変動による不払いが多かった。

(2)　ライスミル（写真9）

デモファーム内ライスミルの設置については，1977年その希望は，37ケ所から出されたが，農民組織に対して購入方式を採用したため，稲の生産，集荷状況，組織等を検討し，9ケ所（TOTOKATON，BULUSARI，DONOARUM，TEMPURAN，MARGOAGUNG，HADIMULYO，TEGINENENG CENTRE，RENGAS，ADILUWIH）設置した。

100haの大型デモファームTofokatonについては，1980年2月，旧組織を解散し，人事の入れかえを行い，同時にライスミルの業務を再開し，精米1ton毎に約1万RP.の純益があることが確認された。

(3)　農業経済関係調査

農業経営調査は，1979年，南，中，北ランポン全域より8ケ村を抽出し，120農家について実施した。1980年は，中，南ランポンのデモファーム内と外との耕作面積別による対象経営調査を行い，また，Totokatonの追跡経営調査を行った。さらに1973年と1980年との比較経営調査を，水田作，畑作デモファーム160農家について実施した。

生産物の流通改善についての調査は，1979年に実施し，食用作物では南，中ランポンより12郡を抽出して行い，農家価格100に対して市場価格が160となり，中間マー

ジンの大きいことが伺われた。

1979／1980年度で，ランポン州における作物分布図を作製した。

農家簿記については，デモファーム内外13郡130農家に記帳簿を配布し，1980年5月現在回収した。

食用作物の販売指導は，ライスミルを中心として米について販売，改善の指導を行った。

タニマムールプロジェクトにおける生産資材の投入効果調査は，各デモファーム別に実施した。

7. 普及計画

(1) ランポン州における普及関係職員の現況と配置

ランポン州における1980年5月現在の専門技術員（PPS），普及員（PPL）の配置状況は第22表のとおりである。

第22表　普及関係PPS，PPM，PPLの配置状況

場　所	PPS	PPM	PPL
北ランポン	3	10	58
中ランポン	3	16	127
南ランポン	3	14	87
州，タニマムール	11	—	
計	20	40	272

(2) テギネネンセンターにおける普及関係のTrainingおよび配布資料（写真10）

タニマムールプロジェクトに対する普及訓練の予算は，協定延長3ケ年のうち1979／1980年度のみ5ユニットが示達されたので，1979年10月から1980年3月にわたりテギネネンセンターにおいて，普及員等に対する訓練を実施した。実施前ランポン州農業局内に研修委員会を発足させ，その計画を普及教育訓練庁および普及プロジェクト（在ジャカルタ）に提示し承認された。訓練は，種子生産，農業機械，病害虫防除，農業経営および収穫後調整の5コースに分け，普及員，上級普及員，病害虫防除班職員，種子センター職員，郡職員を対象とし，種子生産コースは1970年10月19日～26日，農業機械コースは1979年11月5日～10日，病害虫防除コースは1979年11月19日～24日，農業経営コースは1980年1月23日～29日，収穫後調整コースは1980年3月3日～9日に実施し，総合報告書を作成，提出した。また，全部の訓練コースともテキストを作製し，RECに配布した。なお教材用スライドは，水稲，陸稲の栽培法について作製

し，普及員の訓練に用いた。その他農業局普及課において実施された普及員訓練Ⅰ，Ⅱ，ＰＰＭコースの実施に関してアドバイスを行った。

専門技術員に対するセミナーの実施は，毎月２０日にテギネネンセンターのカウンターパートおよび専門家により行うように計画したが，1979年７月（病害虫），1980年３月（普及），1980年５月（土壌肥料）の３回行われたのみである。

また，テギネネンニュース１号（1979年４月），同２号（1979年８月），同３号（1980年３月），ＲＥＣ普及計画作成指導書Ⅰ，Ⅱ（1979年６月），ＲＥＣ稲作訓練実施要領（1979年７月）をそれぞれ発行した。その他１０種類の普及資料をコピーしてＲＥＣに配布した。

写真１０　普及関係のTrainingの状況，ＲＥＣ

(3)　ＲＥＣ（地域農業普及センター）に対する指導

全ランポン州にＲＥＣ１５ケ所の建物が完成し，System LAKU（Training and Visit）が実施されてから１ケ年を経過した。ＲＥＣの普及員に対する訓練は，ある程度順調に実施されているが，普及員による現地農民に対する指導は，不十分であり，この現状を打開するため，System LAKU の督励を強化する一方，ＲＥＣ１ケ所（中ランポン Seputih Raman）をとりあげ重点指導を短期間に行い，成果をあげ，他のモデルとなるようランポン州農業局普及課と協同で計画し，ある程度の成果をあげることができた。

また，ＲＥＣの展示図を十分に活用し，普及員の実習，指導のため中ランポン４ケ所（Bangunrejo，Sukadane，Seputih，Raman，Way Jepara），北ランポン１ケ所（Abung Timur）のＲＥＣを対象とし，1979／1980雨期作で水稲の畑栽培を実施した。

8. 農業機械

(1) テギネネンセンター，ワークショップにおける業務

1) 農具等の試作改良

1979年9月～11月に行われたデモファームの参加農家に対する調査で，水田地帯ではハンドスプレーヤー，耕耘機，唐箕等の要望が強く，また，畑作地帯では，陸稲の除草用具，草刈鎌等の要望が多かった。これらの小農具のうち現地で原材料を入手できる唐箕の試作を行った。

さらにワークショップ内に1979年から1980年にわたり，かじ屋施設，Cupola（鋳物施設）を設置し，小農具等を試作するため準備中である。

2) 資機材の保守管理

供与機材も年数がたつにつれ，故障も多くなってきている。実験室機材および視聴覚機材以外の総ての機材，デモファーム参加農家への配布機材の保守管理および機材の設置（ライスミル）並びにその訓練をも含めて，実質的にワークショップの管理下にある。

写真11　ワークショップでの農機具修理，唐箕の試作（Tegineneng Centre）

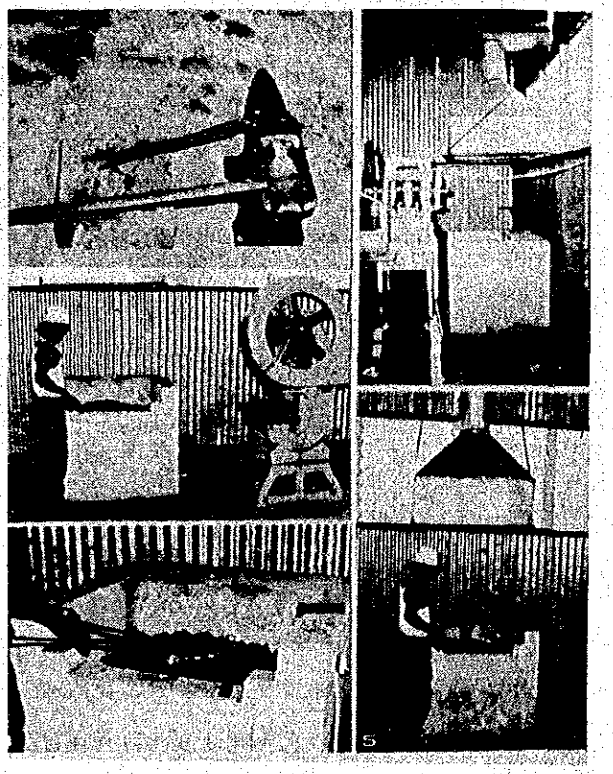


写真12　ワークショップにおけるかじ屋施設

ワークショップの作業員は，ある程度重機材，農機具，車輛等のオーバーホールができるようになった。

3) 圃場作業（写真 11）

テギネネンセンター水田圃場 5 ha は，従来 0.2 ha が 1 区画であったが，水稲種子の増殖を効率化するため，1979年，1区／ha に改修した。

水稲，陸稲では，センターでは耕起から収穫，調整まで，ほとんどの作業を機械化している。

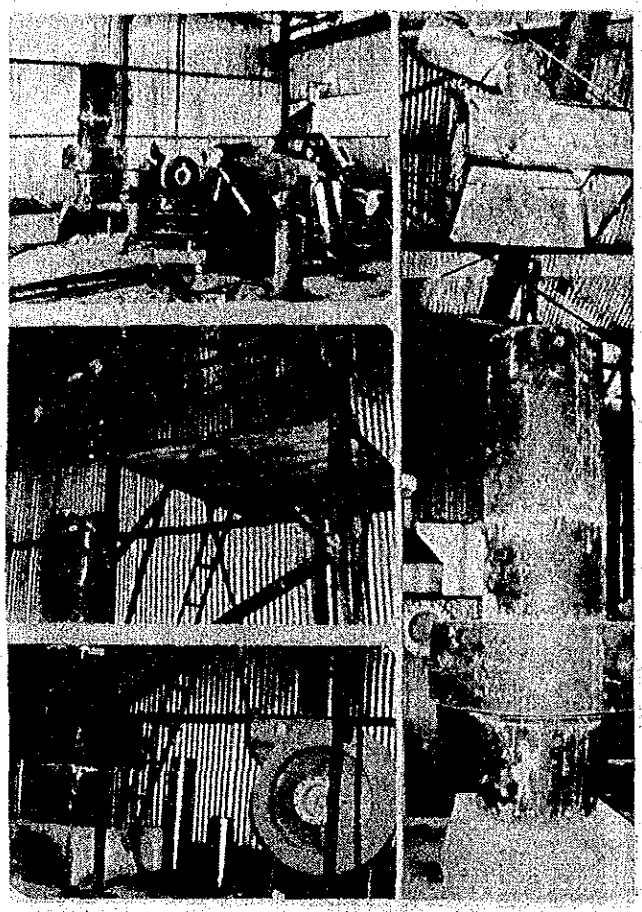


写真 13　ワークショップにおける鋳物施設
(Tegineneng Centre)

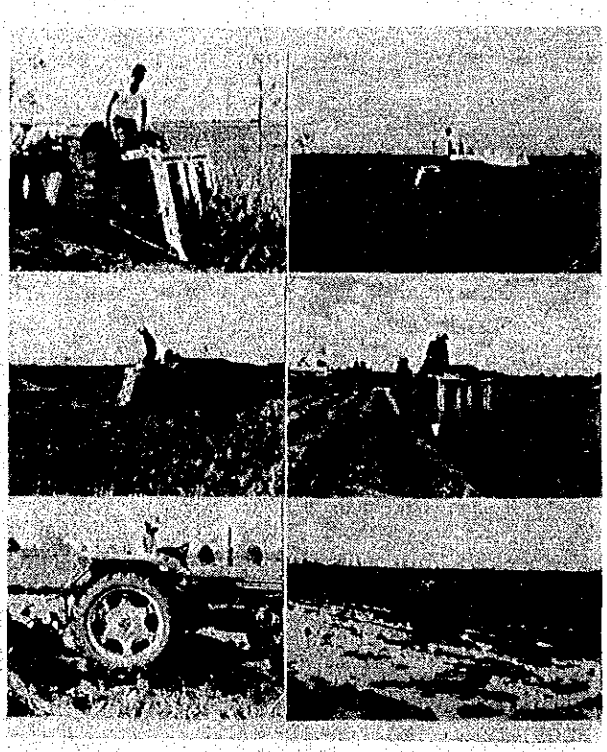


写真 14　農作業の訓練（Tegineneng Centre）

(2) 農業機械関係トライアルおよび調査

1978／1979 年度は 3 ユニット，1979／1980 年度は 6 ユニットで，農機具の能力試験を重点的に行った。1980／1981 年度は前年度同様 6 ユニットである。また，田植機用苗作り要領の作製，機材の現地市販価格の調査，農業機械のコスト試算，現地作業体系の調査，農機具に対する農家の要望調査等を行った。

(3) Training

協定延長後，デモファームに対してミストブロアー，ライスミル，パワースプレーヤー等の機械が新たに配布された。これらの機械について配布前にオペレーター訓練を徹底して行った。その他，普及員，Key Farmer，高校生，大学生に対する機械訓練を実施した。

(4) その他

畑作デモファーム Suka Bandung において，4ケ所（1ケ所5～10 ha の水田を対象）の溜池，テギネネンセンター内電気施設および線間電圧ドロップ改善工事，圃場水路および水田周辺道路の修理工事を施工完成した。またＳＳＢ（短波送受信装置）を10ケ所設置した。

9. 技術情報の交換

協定延長後のマスタープランに示されたＣＲＩＡ，大学，合弁会社との技術情報の交換については第２３表に示すとおりで，1980年１１月までにＣＲＩＡへの出張は１６名で，栽培関係では，稲，大豆，ラッカセイ，緑豆等の品種の入手と耕種概要および品種に関する資料の収集，病虫害関係では，病害虫の鑑定依頼，文献の収集，土壌肥料関係では，文献の収集および試料分析についての情報入手等が主な内容である。大学への出張は Bogor 農科大学へ１名で，主として農業経営に関する資料の収集と情報交換である。またランポン大学へは４名訪問し，病害並びに土壌肥料関係について情報の交換を行った。また合弁会社（ランポン州在）への訪問は，１４名で主として栽培，病害虫および土壌肥料についての技術情報の交換を行った。なおテギネネンセンターへ技術情報の交換のために，ＣＲＩＡから２９名，合弁会社から３５名来所し，その他土壌研究所（Bogor）等への出張は３名で，テギネネンセンターへの来所は６名である。

第２３表　技術情報の交換

場　所	年次／項目	昭５３（１９７８）	昭５４（１９７９）	昭５５（１９８０）	計
ＣＲＩＡ	出　張	６名	７名	３名	１６名
	来　所	5	7	１７	２９
Universities	出　張	1	2	2	5
	来　所	0	0	7	7
Agricultural joint ventures	出　張	0	9	5	１４
	来　所	5	１３	１７	３５
そ の 他	出　張	0	3	0	3
	来　所	1	0	5	6

XV. 報　告　類

1. 協定延長後の報告類等

1) Mimeographed copies

(1) Report on S.P.M.A. student's interest for Agriculture (F. Daimaru). Feb., 1978.

(2) Some recommendations on REC establishment in the Lampung Province. (F. Daimaru), May, 1978.

(3) Daftar curah hujan Propinsi Dati I Lampung. July, 1978.
（ランポン州の年間，月別雨量分布図）

(4) Some advices on rat control (draft). (Translated Japanese and Indonesian language) Sept., 1978.

(5) How to do the multiplication of qualified seed and their distribution. (M. Noda, Murdani Suwito). Nov., 1978.

(6) Identification of P.P.L. knowledge in Lampung Province in 1978. (Joko Umar Said, F. Daimaru). Jan., 1979.

(7) Perhitungan usaha tani dan B/C ratio R.M.U. Proyek Tani Makmur Lampung Tahun 1978/1979. Jan., 1979.
（タニマムールのライスミルの純益試算，1978/1979）

(8) Pesemaian padi sawah dengan menggunakan kotak. Jan., 1979.

(9) Report on trial in 1978 (Interial report). (Japanese language) (Y. Ueda, M. Noda). March, 1979.

(10) Report on soil and fertilizer. (Y. Ito). March, 1979.

(11) The present situation of the brown plant-hopper in Central Lampung. (O. Mochida (LP3), Y. Ueda). April, 1979.

(12) Report on the implementation of system Kunjungan within Demo Farm Tani Makumur. (F. Daimaru). May, 1979.

(13) Test on varietal resistance of rice seedling to rice blast in dry season 1979. Aug., 1979.

(14) Daftar harga kendaraan di Tanjung Karang dan Teluk Betung. Aug., 1979.
（車輛農機具の現地市販価格調査）

(15) Improvement of system LAKU in the Lampung Province. (F. Daimaru). Sept., 1979.

(16) Cost estimation for hand tractor 8.5 HP with rotary and swamp wet field wheel, Sept., 1979.

(17) Farmer's organization (rules and regulations) of Tani Makmur Rice Mill at Desa Totokaton. Oct., 1979.

(18) Pelaksanaan supervisi kegiatan sistem kerja LAKU dari propinsi ke kabupaten, B.P.P. dan WILD. (Marmis, Trisbani, Idaham Bakri B.Sc., F. Daimaru). Oct., 1979.
（ＲＥＣおよび広域町村に対する普及活動のスーパービジョン）

(19) Analytical results of trial soils on 1978/1979. Oct., 1979.

(20) Survey on the virus diseases of soybean in dry season 1979. Nov., 1979.

(21) Survey on the virus diseases of peanut in dry season 1979. Nov., 1979.

(22) Consideration about results of fertilizer trial 1978/1979. Nov., 1979.

(23) Kapasitas peralatan mesin-mesin pertanian. Nov., 1979.
（農機具の能力基準表）

(24) Lampung Tani Makmur Project (1972-1977-1980). Nov., 1979.

(25) Cultivation methods of lowland rice, upland rice, maize, soybean, peanuts, mungbean and cassava. (Translated Japanese language). Nov., 1979.

(26) Survey on the panicle blight of rice in dry season 1979. Dec., 1979.

(27) Survey on Cercospora leaf spot of rice in dry season 1979. Dec., 1979.

(28) On a result for controlling downy mildew of maize. Dec., 1979.

(29) Some impressions and suggestions on system kerja LAKU in the Lampung Province. (F. Daimaru). Dec., 1979.

(30) Pelaksanaan supervisi kegiatan sistem kerja LAKU dari propinsi ke B.P.P. dan WILUD. (Idham Bakri B.Sc., F. Daimaru). Dec., 1979.
（ＲＥＣおよび広域町村に対する普及活動のスーパービジョン）

(31) Test on the seed treatment application by fungicide for the soybean varieties in rainy season 1979. (1). Relation between seed treatment and germination by Thiram Benomyl wettable powder. Feb., 1980.

(32) Survey on varietal yield of rice to Helminthosporium leaf spot in dry season 1979. Feb., 1980.

(33) Survey on varieties and lines of soybean in rainy season 1979/1980. March, 1980.

(34) Tentative report on the implementation of Ad Hoc training in the T.M.T.H. 1979/80. (by Training Committee). March, 1980.

(35) Final report on the implementation of Ad Hoc Taining in the T.M.T.H. 1979/80. (by Training Committee). March, 1980.

(36) Report on trial in 1979/1980 (Interial report). (Japanese language). (M. Noda). April, 1980.

(37) Report on soil and fertilizer. (S. Yoshioka). April, 1980.

(38) Penuntun analisa tanah di Tegineneng. April, 1980.
（テギネネンセンターにおける土壌分析ハンドブック）

(39) Survey on the occurrence of mungbean scab in rainy season 1979/1980. April, 1980.

(40) On the effect of soil suppression in the case of sowing machinery of upland rice in rainy season 1979/1980. April, 1980.

(41) Survey on the germination of seeds collected from virus infected soybean plants and the germination of soybean purple specked seeds caused by Cercospora kikuchii Matsumoto et Tomoyasu. April, 1980.

(42) Survey on the germination of seeds collected from virus infected plants of peanut. April, 1980.

(43) Pestisida yang terdaftar dan diizinkan digunakan pada padi dan palawija. April, 1980.
（イネとSecondary Cropに登録許可されている農薬）

(44) Hasil pelaksanaan peninjauan/supervisi pada lokasi yang di calonkan dalam rangka perlombaan sistem kerja LAKU antara Kabupaten Tingkat Nasional. (Joko Umar Said, Idham Bakri B.Sc., F. Daimaru). May, 1980.
（System LAKU全国評価会に参加する地域の選定）

(45) Pelaksanaan proyek penyuluhan pertanian tanaman pangan dengan sistem kerja latihan dan kunjungan (LAKU) M.T. 1979/80. May, 1980.
（System LAKUの年間実施状況報告書）

(46) Angket penelitian kemajuan Usaha Pertanian Propinsi Lampung. May, 1980.（農家意識調査）

(47) Report on the cooperation to the development of extention system in Lampung Province by Tani Makmur Project. May, 1980.

(48) Identifikasi dan evaluasi pengetahuan dan ketrampilan PPM/PPL. (Joko Umar Said, F. Daimaru). May, 1980.
（PPM, PPL の研修要求度調査）

(49) On the result of the field test about variety, fertilizer and seed dressing (Ridomil SD35) for downy mildew (Sclerospora maydis) on maize. June, 1980.

(50) The results on trials of pest and diseases in 1978/1979 - 1979/1980. June, 1980.

(51) Test on the varietal resistance of the upland rice to neck-rot caused by Pyricularia oryzae Cavara in rainy season 1979/1980. July, 1980.

(52) Survey on the panicle blight of rice in rainy season 1979/1980. July, 1980.

(53) Survey on the influence of yellowing symptoms of rice plant on the yield in rainy season 1979/1980. July, 1980.

(54) Test on the seed treatment application by fungicide for the lowland rice, upland rice and mungbean in dry season 1980. August, 1980.

(55) Report of Japanese experts for the second phase of Lampung Tani Makmur Project (1977 - 1980). Nov., 1980.

2) Printed matters

(1) Lampung Tani Makmur Project (1972 - 1977 - 1980). JICA. January, 1980.

(2) Distribution charts of mean annual and monthly precipitation in Lampung Province. (T. Nishizawa, Y. Sugii). JICA. March, 1980.

2. 1971年以降の印刷資料

(1) 基本実施計画，巡回指導，エバリュエーション調査の報告

年　　月	報　告　書　名	発行所
昭和46年12月	インドネシア・ランポン農業開発調査報告書	OTCA
〃 47年 8月	インドネシア国ランポン州農業開発実施計画	〃
〃 48年 2月	インドネシア・ランポン地区農業開発計画実施設計調査報告書	〃
〃 50年 1月	インドネシア・ランポン農業開発計画巡回指導調査報告書	JICA
〃 50年 5月	インドネシア・ランポン農業開発計画巡回指導調査報告書	〃
〃 50年10月	昭和50年度農業土木分野に係る巡回指導調査団報告書	〃
〃 51年 5月	インドネシア・ランポン農業開発計画巡回指導調査団報告書	〃
〃 51年 7月	インドネシア・ランポン農業開発計画合同中間エバリュエーション調査報告書	〃
〃 52年 8月	インドネシア共和国ランポン農業開発計画合同エバリュエーション調査報告書	〃
〃 53年12月	インドネシア・ランポン農業開発計画巡回指導チーム報告書	〃

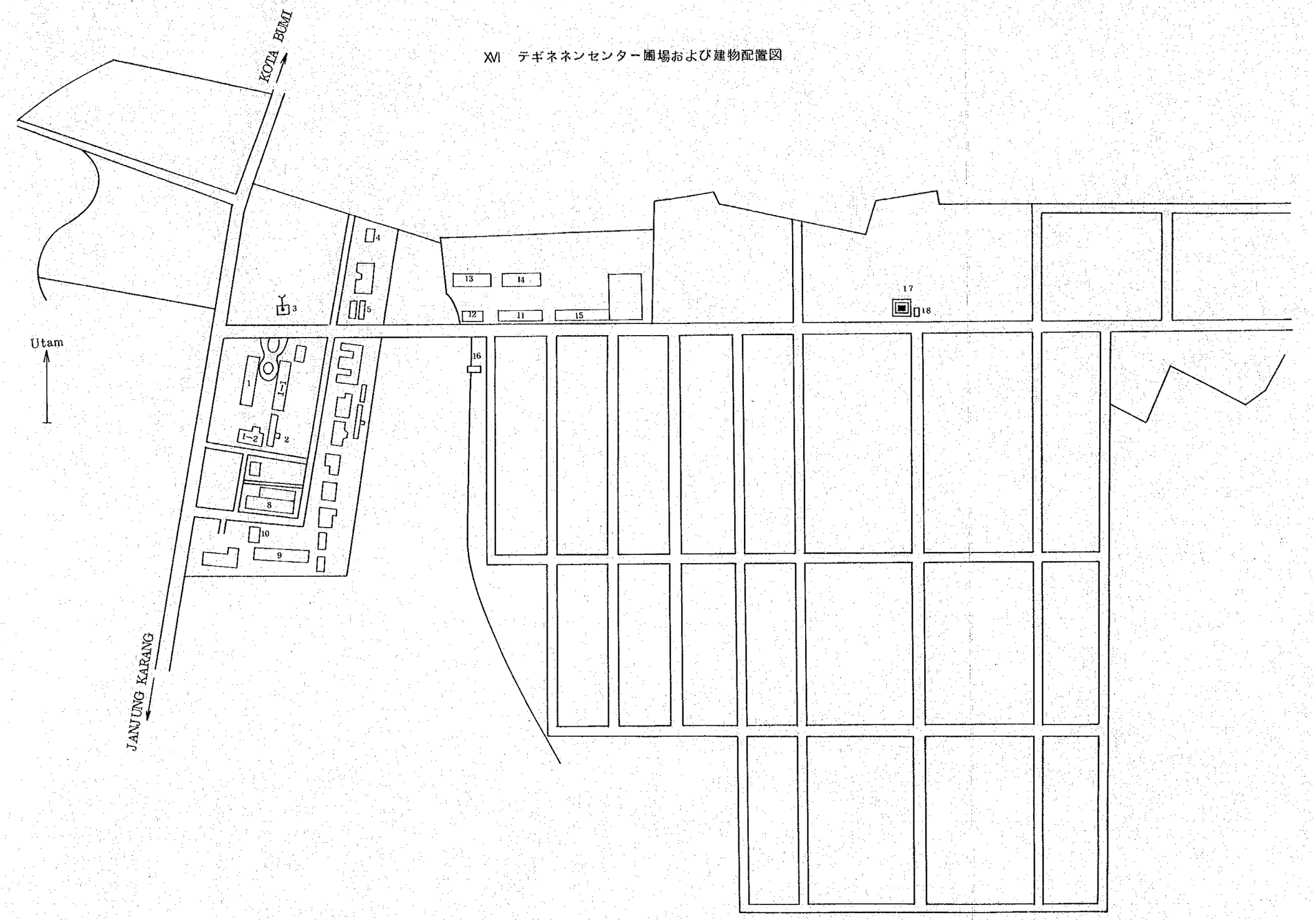
(2) 専門家の報告

年　月	報告者名	報告書名	発行所
1972. 11	大島幸夫	Agricultural Statistics in Indonesia	OTCA
昭和49年 7月	岡　哲	インドネシア国ランポン州農業開発協力派遣専門家帰国報告書（畑作栽培）	〃
〃 50年 3月	野島数馬・広瀬昌平	澱粉作物キャッサバについて ― 東南アジアの畑作を考える ―	〃
〃 50年 3月	森　弘	インドネシア・ランポン農業開発プロジェクト専門家（農業普及）報告書	〃
〃 50年 6月	小坂二郎	同　上　（土壌肥料）〃	〃
〃 50年12月	中島　昭	インドネシア・ランポン農業開発計画総合報告書　（稲作普及）	〃
〃 50年12月	加藤成一	同　上　（畑作普及）	〃
〃 51年 5月	鈴木忠夫	同　上　（病虫害）	〃
〃 51年 5月	服部康二	同　上　（かんがい）	〃
〃 51年 5月	広瀬昌平	同　上　（畑作栽培）	〃
〃 52年 1月	石田忠人	同　上　（農業機械）	〃
〃 52年 1月	〃	同　上　― 付属資料 ―　（インドネシアの農機具）	〃
1972. 12	〃	Report on Agricultural Mechanization in Lampung Tani Makmur	〃
昭和52年 2月	野島数馬・広瀬昌平	文献からみたキャッサバ研究の概要 ― キャッサバ栽培の手引書として ―	〃
〃 52年 2月		同　上　（英　文）	〃
〃 54年 1月	野島数馬	インドネシア・ランポン農業開発計画第1次協定期間最終報告書（1973～1977）	〃
〃 55年 3月	杉井　裕・西沢正洋	Distribution Charts of Mean Annual and Monthly Precipitation in Lampung Province.	〃
〃 55年 4月	大丸章人・舘野紀昭	Lampung Tani Makmur Project （1972－1977－1980）	〃

(3) インドネシア側の報告（Tani Makmur Project 関係）

1. Laporan Kegiatan Project Tani Makmur Lampung Tahun Anggaran 1973/74
2. " 1974/75
3. " 1975/76
4. " 1976/77
5. " 1977/78
6. " 1978/79
7. Joint Evaluation Report on Lampung Tani Makmur Project 1976
8. Final Report on Evaluation for Lampung Tani Makmur Project 1977
9. Appendix, Final Report on Evaluation for Lampung Tani Makmur Project 1977
10. Pedoman Pengelenggoraan Demo-Farm upland 1976/77
11. " Demo-Farm Lawland 1976/77
12. Pedoman Pelaksanaan Penataran Petugas 1979/80
13. Petunjuk Pelaksanaan Latihan Penjuluh Pertanian Lapangan (PPL) di Balai Penyuluhan Pertanian Tanaman Padi Sawah 1979
14. Daerah Pembinaan dan Areal Pertanian di setiap B.P.P. Propinsi Datil Lampung 1978/79
15. Berita Tegineneng NO.1 April 1979
16. Berita Tegineneng NO.2 Sept. 1979
17. Report on the Variation of Farmer's sense and activity in Tani Makmur Project 1978
18. Kumpulan Bahan Pelajaran Latihan Petugas Produksi Benih Oktober 1979
19. Kumpulan Bahan Pelajaran Latihan Petugas Alat 2 Mesin Pertanian. Nop. 1979
20. Kumpulan Bahan Pelajaran Latihan Petugas Pengelolaan Usaha Tani. 1980
21. Kumpulan Bahan Pelajaran Latihan Petugas Proteksi Tanaman. 1980
22. Kumpulan Bahan Pelajaran Latihan Petugas Pasca Panen. 1980
23. Laporan Kegiatan Pelaksanaan Latihan Petugas (Ad hoc training). T.A. 1979/80
24. Berita Tegineneng NO.3 March 1980

XVI　テギネネンセンター圃場および建物配置図



第２４表　テギネネンセンター圃場および建物等面積

名称		面積	備考
水田		5 ha	
畑		22.5 ha	
建物等		5 ha	備考
№1	事務室，講堂	570.23 ㎡	
1-1	事務室，会議室，図書室，実験室	560.39 ㎡	
1-2	事務室		種子センター
2	種子貯蔵庫	471.52 ㎡	
3	気象観測圃場	312.62 ㎡	
4	発電室	92.34 ㎡	
5	グリーンハウス	195.16 ㎡	2棟
6	宿泊施設	904.28 ㎡	
7	網室	130.78 ㎡	種子センター
8	倉庫及び乾燥場		同上
9	機材修理倉庫	2500.00 ㎡	同上
10	機材倉庫		同上
11	資機材倉庫		
12	同上		
13	ワークショップ	700.00 ㎡	
14	資機材倉庫		8～12に含む
15	種子乾燥，調整，貯蔵庫		
16	ポンプ室	46.24 ㎡	
17	貯水場	600.00 ㎡	
18	ポンプ室（スプリングクラー用）	61.59 ㎡	
	計	32.5 ha	

（注）　№1～18は配置図参照

むすび

ランポン農業開発計画の第２次協定期間である1977年１１月１４日から1980年11月13日迄の経過は，前述したとおりであるが，特記すべきことをとりまとめると次のとおりである。

(1) インドネシア側予算の示達が，1978，1979年度は大幅におくれ，業務に支障を来たしたが，1980年度の予算は，1980年４月末に示達され，各費目はランポン州農業局予算内にタニマムールと明示して，その積算基礎が明らかにされた。トライアル，試験等の業務費と運営費との割合は，1978年度は３０：７０，1979年度は３４：６６，1980年度は４７：５３と業務費の増加がみられた。なお1980年度の資機材引取費を別わくとしたことも1980，1979年度とことなるところである。

(2) 供与機材の1980年度分は１１月現在未着であるが，ジャカルタ，タンジュンカラン，トルクペトンでのスペアパーツの現地調達は，１２月中に終了する予定である。1977～1979年度の供与機材は，1979年度第１回分（ジャカルタ経由）の施盤が破損したのみで，他は順調にテギネネンセンターに到着した。なお1972年度に供与したディゼル発電器３台は，故障することが多く，スペアパーツも現地になく，ワークショップ内の修理作業，脱穀，調製，乾燥作業，灌水作業，実験等に支障を来すことが多いので，更新を希望する。

(3) 協定延長後３ケ年のインドネシア側人事としては，農業大臣，次官の交代，農業省食用作物総局では，総局長がWardoj，次長がNusyrwan Zen（元ランポン州農業局長，初代タニマムールプロジェクト・デイレクター），生産局長がDjafri Djamaluddin，植物保護局長がIda Nyoman Okaとなり，タニマムールプロジェクトでは，1980年１月１２日付で農業局長が交代し，Djoko Achmad Jahajaとなった。またA. Hanan Zaed（前普及課長）が，再びカウンターパートとなった。

(4) 1979年７月６日，吉良秀通前インドネシア国日本大使，同年８月６日，押尾虎夫前インドネシア国日本総領事，1980年７月３０日，澤木正男インドネシア国日本大使が，それぞれテギネネンセンターを訪問視察された。またSoedarsonoインドネシア農業大臣が，1978年１２月３０日，1979年９月２３日の２回テギネネンセンターを訪問された。

(5) 1980年４月２２日，テギネネンセンターにおいて吉岡真一専門家の報告会が行われ21名が出席した。また1980年１１月３日，テギネネンセンターにおいて野田畠治，上田勇五，大丸章人，杉井裕，菅原清吉各専門家の順で，報告会が開催され，ランポン州農業局関係者を含め総員３３名が出席し，午前9時２０分から午後５時迄熱心な討議が行われた。

(6) 1980年１１月５日，専門家の英文報告書（Report of Japanese experts for the second phase of Lampung Tani Makmur Project）の製本が完了し，１１

月６日～１２日に食用作物総局，ランポン州政府，農業局，タニマムールプロジェクト並びにジャカルタ日本大使館，ＪＩＣＡ関係者に配布した。

(7) 1980年１１月６日，テギネオンセンターにおいて，ランポン州農業局主催でプロジェクトのFinal Ceremonyが開催され，インドネシア農業省食用作物総局Wardojo総局長，Nusyrwan Zen次長，ランポン州知事代理Alimuddin Umar SH.，ジャカルタ日本大使館中村泰三公使，石川竹一書記官，ＪＩＣＡジャカルタ事務所宮本守也所長，内田智允職員，ランポン州農業局長，タニマムール農民団体代表等１６０名以上が出席して午前１０時から開会され，盛会のうちに午後１時終了した。（写真１５，１６）

(8) １９８０年１１月３日，ランポン農業開発計画のフォローアップについて，インドネシア側は農業省食用作物総局Sardjono Reksodmuljo計画局長と日本側はＪＩＣＡジャカルタ事務所宮本守也所長との間で，署名が行われ，Agricultural machinery，Upland farming，Plant protection の三分野の専門家が１９８０月１１月１４日から２ケ年間技術協力を行うこととなった。

インドネシアおよびランポン州の諸事情については，インドネシア農業開発計画第１次協定期間最終報告書等に詳細に記述されているので重複をさけ，第２次協定期間中に収集したことを別添資料とした。

別添資料 1. ランポン州における人口の変動

〃 2. ランポン州の産業部門別就業人口構成（１９７６年）

〃 3. 産業部門別のランポン州総生産の国民総生産に対する寄与率

〃 4. ランポン州における主要農産物の輸出量および輸出金額

〃 5. ランポン州における主要品目の輸入量

〃 6. ランポン州における農業関係プロジェクト（１９８０年）

〃 7. ランポン州における大規模農場（１９７９年）

最後に，本報告をとりまとめるに当り８ケ年のプロジェクトを御支援，御協力をいただいたインドネシア側の農業省食用作物総局，ランポン州政府および農業局，ボゴール中央農研の職員各位に感謝の意を表するとともに，日本側の外務省経済協力局技術協力課，農林水産省経済局国際協力課，農蚕園芸局普及教育課，農林水産技術会議事務局，ＪＩＣＡ農業開発部の関係者各位に深謝の意を表する。また，インドネシア日本大使館農務官，ＪＩＣＡジャカルタ事務所職員，ボゴール中央農研研究協力チームの各位に御指導をいた いた。併せて深甚の謝意を表する次第である。今後フォローアップでさらに２ケ年３名の専門家が技術協力を行うこととなったので，今迄同様に御支援，御協力をお願いする。

全　景

招待者

タニマムール
農民団体代表

日本人専門家
ランポン州農業局関係者

ランポン州農業局長による
プロジェクトの総括報告

ＪＩＣＡジャカルタ事務所
宮本守也所長挨拶

写真１５　１９８０年１１月６日
Tegineneng Centerにおける
Final Ceremony状況（１）

タニムール農民団体代表
挨拶

農業局食用作物総局長祝辞

ジャカルタ日本大使館
中村泰三公使祝辞

ランポン州知事（代理）祝辞

贈　答

贈　答

（祈り）

写真１６　１９８０年１１月６日
Final Ceremony
Tegineneng Center（２）

別添資料 1.

ランポン州における人口の変動

年　　次	ランポン州 2) 千人	ジャワ マドフラ 3) 千人	インドネシア計 3) 千人
1961年 1)	1,667.5	62,993	97,019
1965年	2,098.7	68,028	105,414
1971年 1)	2,775.7	76,031	118,368
1975年	3,308.8	83,534	132,110
1977年	3,707.3	87,076	138,342
1978年	3,820.5		
平均増加年率	%	%	%
1961～65年	6.46	1.60	2.16
1965～71年	5.38	1.96	2.05
1971～75年	4.51	2.38	2.78
1975～78年	4.97		

平均増加年率

年　　次	タンジュンカラン, トルベクトン	南ランポン	中ランポン	北ランポン
	%	%	%	%
1961～65年	6.58	6.38	5.96	7.36
1965～71年	2.82	4.75	7.60	1.41
1971～75年	1.70	3.80	7.01	6.10
1975～77年	3.46	5.55	6.46	6.63
1975～78年	2.46	3.93	5.82	6.41

（注）1）1961年，1971年はセンサス年次

2）ランポン州の人口は LAMPUNG DALAM ANGKA 1978より。

3）STATISTICAL YEARBOOK OF INDONESIA 1977より。

別添資料 2.

ランポン州の産業部門別就業人口構成（1976年）

地域 / 項目 / 部門	ランポン州		インドネシア計	
	実数（人）	構成比（%）	実数（千人）	構成比（%）
農林，漁業	896,233	76.5	29,117	61.6
工業	72,678	6.2	4,924	10.4
商業，サービス業	201,935	17.3	13,265	28.0
計	1,170,846	100	47,306	100

（注） STATISTICAL YEARBOOK OF INDONESIA 1977より

別添資料 3.

産業部門別のランポン州総生産の国民総生産に対する寄与率（1971～1976年）

（%）

地域	部門 / 年次	1971	1972	1973	1974	1975	1976
ランポン州	農林漁業	55.7	58.4	60.1	56.7	56.1	56.7
	農業	48.5	50.5	53.8	50.6	52.3	53.2
	林業	3.2	4.3	3.0	2.7	1.5	1.4
	漁業	4.0	3.6	3.3	3.4	2.3	2.1
	工業	8.5	7.0	7.3	8.2	8.5	8.5
	商業，サービス業	35.8	34.6	32.6	35.1	35.4	35.8
インドネシア計	農林漁業	44.8	40.3	40.1	32.7	31.7	31.1
	農業	37.8	34.0	32.9	27.0	26.9	26.4
	林業	3.9	3.9	5.2	4.0	3.3	3.3
	漁業	3.1	2.5	2.0	1.7	1.5	1.4
	工業	20.4	24.8	26.3	34.8	33.8	34.2
	商業，サービス業	34.8	34.9	33.6	32.5	34.5	34.7

（注） 1. ランポン州はLAMPUNG DALAM ANGKA 1978より加工。
2. インドネシア全体は，STATIATICAL YEARBOOK OF INDONESIA 1977より加工
3. 工業は鉱工業，製造業，電気ガス水道業，建設業が含まれる。
4. 商業，サービス業は，運輸通信業，金融保険，公務，サービス業が含まれる。

別添資料 4.

ランポン州における主要農産物の輸出量および輸出金額

項目 / 品目 / 年次	輸出量 (ton)		輸出金額 (10,000 US$)	
	1977	1978	1977	1978
ゴゴ	24,979	25,374	1,796	2.044
コーヒ	47,470	70,293	18,673	15,731
コショウ	19,926	25,446	3,373	4,059
トウモロコシ	3,888	10,260	45	99
タピオカ	141,777	185,672	1,047	1,202
コプラ	5,550	7,500	126	97
タバコ	176	135	14	16

（注） LAMPUNG DALAM ANGKA 1977, 1978より。

別添資料 5.

ランポン州における主要品目の輸入量（ton）

品目 / 年次	米	肥料	セメント	アスファルト	その他	計
1970	2,000		38,047	4,000	9,290	53,337
1971	2,000		10,021	5,300	5,367	22,688
1972	11,323	3,520	15,512	690	9,143	40,188
1973	10,490	5,967	24,150	5,170	16,572	62,349
1974	6,739	10,819	16,093	3,716	7,314	44,681
1975		16,612	7,420	6,357	25,772	56,161
1976	8,700	8,464	34,829	1,000	7,300	60,293
1977	11,627	8,528	23,702	2,000	13,487	59,344
1978	15,995	20,246	1,100	3,494	22,290	63,125

（注） 1. LAMPUNG DALAM ANGKA 1978より

2. Panjang港における入荷量

別添資料 6.

ランポン州の農業関係プロジェクト （1980年）

プロジェクト名	期　　間	概　　要	1978年インドネシア側予算 (RP.×1,000)	1979年 左　同	1980年 左　同
Trial palawija (FAO)	1978／1979-5年	Secondary crop の肥料，品種，栽培試験を全ランポン州で実施	12,800	8,000	20,000
Small scale irrigation (U.S.Aid)	1976／1977-5年	中ランポンが主で Secondary crop に対するかんがい	49,070	380,095	135,205
Perbaikan Gizi (UNISEF)	1977／1978-3年	生活改善およびホームヤードの改善	3,089	—	3,919
Tani Makmur (JICA)	1977-1980	—	97,235	128,465	100,603

別添資料 7.

ランポン州における大規模農場（1979年）

農場名	場所	面積	栽培作物	備考
1. P.N.P. XIX	Kec. Padang Ratu Kab. Lamp. Teng.	(ha) 6,000	タバコ ネコノヒゲ	SK. Penc. Gubernur
2. P.T. BERNUNG (Naga Intan)	Desa Bernung Kec. G. Tataan Kab. Lamp. Sel.	138	ゴム コーヒ ヤシ 丁字	
3. P.T. CHANDRA BUMI Kota	Desa Sriwijaya Kec. Padang Ratu Kab. Lamp. Teng.	4,000	サトウキビ	SK. Penc. Gubernur No. G/193/VI/HK/73, Sept. 11, 1973
4. P.T. DAYA ITOH	Desa Blambangan Pagar. Kec. Abung Selatan, Kab. Lamp. Utara	4,689	トウモロコシ ソルガム キャッサバ イネ	No. 34a/HGU/DA/77, Oct. 31, 1977
5. P.T. DAYA KALIANDA RAYA	Dasa Tanjungan Kec. Ketibung Kab. Lamp. Selatan	423.65 2,600	ヤシ 丁字 トウモロコシ ミカン	SK. Penc. Gubernur No. 087/BI/HK/70 H.P.H.
6. P.T. GUNUNG MADU PLANTA-TION	Kec. Terbanggi Besar, Kab. Lamp. Tengah	18,500	サトウキビ	SK. Penc. Gubernur No. DA. 9/SK/PH/75, July 14, 1975
7. P.T. GUNA JAYA INDAH	Kec. Seputih Banyak, Terbanggi Besar, Menggala Kab. Lamp. Teng. Lamp. Utara	10,489	ロゼラ キャッサバ トウモロコシ	SK. Penc. Gubernur No. DA/13/SK/PH/74. DA/14/SK/PH/74 Sept. 14, 1974
8. P.T. LAMPUNG PELLETIZING FACTORY	Kec. Kedaton Kab. Lamp. Sel.	3,092.25	イネ キャッサバ トウモロコシ 丁字 コーヒ ミカン	HPHK No.004/PH/1974 April 1, 1974

農場名	場所	面積	栽培作物	備考
9. P.T. MITSUGORO	Desa Sribawono, Lab. Maringgai (Lamp. Teng.), Bergen (Lamp. Selatan)	5,323.23	トウモロコシ ソルガム キヤッサバ ロゼラ	SK. Gubernur No. G/73/I/TH/69 May 25, 1969, SK. Gub. No. 164/I/TH/69. Nov. 12, 1969
10. P.T. PAGO	Kec. Padang Ratu Lampung Tengah	10,000	ロゼラ キヤッサバ 油ヤシ	SK. Penc. Gubernur No. Des/0158. July 2, 1970
11. N.V. PPP. NAKAU	Desa Candinas Kec. Abung Sel. Kab. Lampung Utara	2,820.50	ゴム 丁字 ヤシ	HGU No. SK.6/HGU/ DA/77. March 21, 1977
12. N.V. PPP. LANGKAPURA	Kec. Panjang Kab. Lamp. Sel.	713.50	ゴム コーヒ	HGU. No.31. July 15, 1977
13. P.T. SIBALANG (Naga Intan)	Kec. Panjang Kab. Lamp. Selatan	720.30	ヤシ 丁字	
14. P.T. SILAJAYA	Kec. Terbanggi Besar. Kab. Lamp. Tengah	5,230	キヤッサバ 丁字 トウモロコシ ヤシ ココア	SK. Pencadangan No.G/264/DI/HK/73 Dec. 29, 1973
15. P.T. SAHANG BANDAR LAMPUNG	Kec. Padang Ratu Kab. Lampung Tengah	238	ターメリック (ウコン) ショウガ	HGU. No.75/HGU/DA/73. Oct. 20, 1973
16. P.T. TANJUNG JATI	Kec. Kota Agung Kab. Lamp. Sel.	1,552.45	ゴム 丁字	HGU. No.3/Ka. Sept. 9, 1970
17. P.T. TUNAS BARU LAMPUNG	Kec. Terbanggi Besar. Kab. Lamp. Tengah	5,500	キヤッサバ	SK. Penc. Gubernur No.DA/I/SK/PH/1974, DA/3/SK/PH/74 January 29, 1974

農場名	場所	面積	栽培作物	備考
18. P.T. TARU PRAKARTI	Desa Rantau Jaya Surabaya Udik, Sukadana, Rajabasa Lama, Pk. Haji, Kec. Sukadana/Jepara Kab. Lamp. Tengah	6,000	キャッサバ	SK. Penc. Gub. No.DA/PH/X/75 Dec. 12, 1975
19. P.T. UMAS JAYA FARM	Kec. Terbanggi Besar. Kab. Lamp. Tengah	7,000	キャッサバ パイナップル	SK. Penc. Gubernur No.G/190/DI/HK/73 Sept. 10, 1973
20. P.T. WAY RATAI (Karko Kultura Utama)	Desa Way Ratai Kec. Padang Cermin Kab. Lamp. Selatan	1,200	ゴム コーヒ 丁字	SK. Mentan No.580/KPTS/U/12/1970 Dec. 19, 1970
21. P.T. BENTARA SATRIA JAYA	Kec Padang Ratu (Kebun) Kec. Tb. Besar. Kab. Lamp. Tengah		キャッサバ	SK. Penc. Gubernur Kdh. No.DA/5/SK/PH/75 May 31, 1975
22. P.T. WAY HALIM	Kec Kedaton Kab. Lamp. Selatan	1,085	ゴム	HGU. No. KPT/15/63 Sept. 21, 1963
23. P.T. LAKOP	Desa Panggungan Kec. Gunung Sugih Kab. Lamp. Tengah	99	トウモロコシ ミカン キャッサバ トウガラシ	Izin Bupati/Kdh.Tk.II Lamteng No.41/IV/PK/77 March 29, 1977
24. P.T. MULTI AGRO	Gn. Batin. Kec. Tb. Besar, Kab. Lamp. Tengah	5,300	キャッサバ ヤシ ジャンブウ	SK. Gubernur No.DA/4/SK/PH/76 May 4, 1976
25. P.T. RATIH MUS TIKA SARI	Kec. Blambangan Pagar, Surakarta Kec. Abung Selatan, Abung Timur Kab. Lamp. Utara	5,000	キャッサバ	SK. Penc. Gub. No.22/SK/PH/1975 Nov. 14, 1975
26. P.T. BUMI LAMPUNG PERMAI	Kec. Tb. Besar Kab. Lamp. Tengah	2,000	キャッサバ	SK. Penc. No. DA/22/SK/PH/76 Nov. 11, 1976

農場名	場所	面積	栽培作物	備考
27. P.T. SATONAS	Kec. Kotabumi Kab. Lamp. Utara	6,000	キヤッサバ	
28. P.T. WILANG SA SARI	Desa Way Rumbia Kec. Rumbia Kab. Lamp. Tengah	8,685	キヤッサバ	HPH. No.008/PH/1974 Oct. 30, 1974
29. P.T. SELAGAI LINGGA	Komering Putih Kec. Gn. Sugih Kab. Lamp. Tengah	200	ヤシ ココア	SK. Penc. Gub. No.DA/2/SK/PH/75
30. P.T. HIREMA	Kec. Kedaton Kab. Lamp. Selatan	1,000	トウモロコシ	H.P.H.
31. P.T. SINGALAGA BARU	Kec. Ketibung Kab. Lamp. Selatan	1,000	トウモロコシ	H.P.H.
計	126,598.88 ha			

（出所） DINAS PERKEBUNAN DAERAH PROPINSI TINGKAT I LAMPUNG